

4・19 法大-文科省へ!

2012年 4月16日
19

Tel 050-3036-6464
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長)書記局通信

4・19 法大闘争へ③ ~不当処分撤回を~

法大文化連盟は08年、仲間への不当処分に対して「一人の仲間も見捨てない」と訴えて決起した。この不当処分撤回闘争こそ、「教育の民営化」であり今の原発をはじめとした今の社会のあり方を根本から変革する力を持っている。

処分とは闘う学生をキャンパスから排除すると共に、「闘えばこうなるぞ」と学生同士を分断することに核心がある。こうした学生への不当処分攻撃に対して、法大闘争は文連を始め自らも処分を辞さず闘う主体を数多く生み出してきた。法大当局の狙いは完全に破産し、逆に学生の団結を全国・全世界に拡大してきた。今やこの闘いは福島大生とも結合し、大学から社会を変える根底的な闘いとして発展している。4・19は改めて、不当処分撤回を真っ向から訴える闘いとして大爆発させよう!



大飯原発再稼働阻止へ!

野田政権は4月13日、閣僚会合にて大飯原発再稼働を「必要」と判断し、枝野経産相が福井県入りした。大飯原発再稼働情勢は超切迫している。粉碎あるのみだ。

この間野田政権は、地元との「合意」がなくても「理解」だけで再稼働はできると強弁し、新たな「安全基準」のもと原発再稼働へ急速に動いている。これは5月5日をもって「原発ゼロ」となることへの危機感のあらわれであり、3・11福島県民大会を頂点とした福島からの反原発の怒りの声を何としても押しつぶさんとする絶望的なあがきそのものである。

4・19は再稼働を絶対に阻止し、全ての原発を廃炉に追い込んでいく闘いとして大爆発させよう!

残り3日。総力で組織化を!



4月14日の読売新聞

「原発再稼働阻止! 不当処分撤回!」 法大包囲デモ

4月19日(木) 正午 法政大学市ヶ谷キャンパス
正門前集合

文部科学省申し入れ-包囲行動

4月19日(木) 15時 経済産業省前テント集合
「2011年シベリヤ基準」撤回を求める申し入れ書を提出します。
行動終了後の18~20時に屋内会場で総括集会を行います。



昨年10月21日、福大生とともに福大キャンパスで集会!

新歓講演会が大成功！

法大・首都圏

4月15日、法大を中心とした首都圏大学の新歓企画として被爆医師の肥田舜太郎さんをお招きしての講演会が行われ、多くの新生が結集し、大成功しました。

肥田さんは自らも広島で被爆しながらも医師として被爆者の治療を続け、内部被曝の危険性を訴え続けてきました。

肥田さんは講演会の中で自らの被爆体験を明らかにしながら「一番頭に来るのは『体にはいるのは微量だから影響ない』というもの」「いまの福島での内部被曝問題でも、何も知らずに死んでいったヒロシマの人たちと全く同じことが起ころうとしている。絶対にそうさせちゃいけない。みんなが闘わなきゃいけない」「政府・東電を断罪すべき」「核を地球上からなくそう」と訴えられました。

質疑応答では新生先頭に「ガレキ処理はどうすべきか」「福島の子供はどうすべきか」等々の質問が寄せられ、活発な討論が行われました。

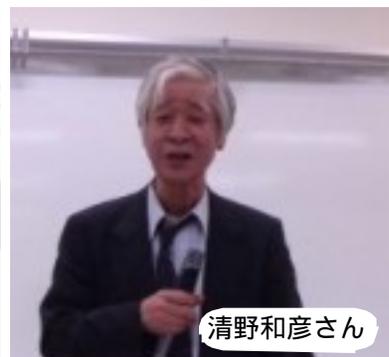
最後に斎藤委員長から、肥田さんの呼びかけに応え「被爆者の怒りを叩きつぶして原発を作ってきたことを絶対に許しちゃいけない。再稼働を絶対に阻止しよう」「御用学者・山下俊一や神谷研二らによってヒロシマ・ナガサキとまた同じことが繰り返されようとしている。核を中心とした戦後世界体制と対決しなくてはならない」「法大と文科省こそ『教育の民営化』で原発を推進してきた張本人だ。この二つにデモをかける4・19法大闘争へ集まろう！学生こそが社会を変える先頭に立とう！」と呼びかけられました。



肥田舜太郎さん



松井英介さん



清野和彦さん

なる記事が掲載されました。この記事の中では学内における学習会の様子、全学連の内部情報などさまざまな事柄が書かれています。その内容は一点、福大学生運動に対する憎悪、そして福島現地における反原発運動解体の意志に貫かれています。マスコミ・警察権力・大学が一体となった反動を私たちは絶対に許さない。とりわけ昨年末、「チェルノブイリ報告」と称し、福島安全キャンペーンの論陣を張る産経新聞と清水修二（福大当局）の蜜月ぶり！どこまで腐敗しているのか！

しかしこれら密集せる反動に対し、3・11集会で示された「フクシマの怒り」はそれをも糧としながらさらに発展していています。

それが最もよく象徴されたのが、4・7～4・8に福島大学内で行われた「『原発と人権』全国研究・交流集会in福島」です。この集会自体は社民党・共産党をはじめとする既成党派・既成潮流によって企画された集会であり、統一性も全原発廃炉に向けての強固な意志も感じられない集会ですが、そこには間違いなく「フクシマの怒り」が存在しました。

清水修二は自身がパネリストとなった分科会の中において、次のように述べています。「政府を信用するなということではなく、信用できる政府をつくろう」「（チェルノブイリ訪問について）影響がなかった証拠はないが、統計的に確認できるほどの大きさはなかった」。これに対し、フロアから怒りが爆発しました。「娘が福大に通っています。要望を出してもなかなか除染してくれませんでした。受験生が減ると困るのでさすがに受験前は除染しましたが」（川俣町40代高校教員）

これらの怒りを引き継いで、4月12日には内科医・松井英介さんを講師として新生歓迎企画を開催しました。松井さんには、放射線の基礎知識、低線量・内部被曝問題とICRPに対する弾劾をはじめ、ガレキ広域処理問題、ビキニ事件・広島原爆投下の真相、イラクにおける劣化ウラン弾問題に至るまで縦横無尽に提起を行って頂きました。講演と実行委員会からの提起をもって、4・19法大・文科省行動にかけつける決意が固められました。

これらかもさらに新生と結びつき・福大学生運動の発展をかちとります！

京都大学

4月13日、京都大学で福島県教職員組合元委員長・清野和彦さんの講演会が行われ、多くの新生を迎えて大成功しました！

また駆けつけた斎藤委員長から4・19への結集が呼びかけられました。



福島大学

福島大におけるこの間の闘いの報告を行います。

福大学生運動に対し、この間密集せる反動が襲いかかっています。4月4日の入学式における光景はまさに法政大学の門前を彷彿とさせるものでした。10人近い教職員が監視に目を光らせ、学生が私たちのピラを受け取るなり、その学生に近づきピラをとり、デマ宣伝を開始する。福島大学は私たちの闘いの前進に追いつめられ、急速に反動化の度を強めています。

この翌日4月5日付産経新聞には「過激派 福島大で暗躍」